

# てこな・ミュージック・ジャーナル

## 音楽祭のお話

### 市川でも「音楽祭」!

お祭りという字がつくだけで、何となく心が浮き浮きとした気分になります。

でも音楽祭の歴史はそれほど古いものではありません。もともと音楽は宗教的儀式や祭典のための脇役だったので、音楽祭と銘打って主役となったのは19世紀も末になってからです。有名なところでは1870年台に始まったザルツブルグ音楽祭やパイロイト音楽祭で、いずれも現在も続き、チケットを取るのが至難のわざというほどに、大変な人気です。

さて、ここ市川でも10月に「音楽祭」が開かれます。ただかぎ弧付きには理由があります。主体は第三回WHO世界健康都市連合国際大会で、その関連イベントとしてのフェスティバルだからです。

### 有名な音楽祭

ところで日本でよく知られた音楽祭というと別府アルゲリッチ音楽祭でしょうか? ピアニストアルゲリッチの知名度と、この音楽祭が掲げる明らかなコンセプトによって、10年目を迎え、毎年多くの人を集めています。ホームページによりますと、この音楽祭は「育てる」「アジア」「創造と発信」をスローガンとしているそうです。若い人たちが素晴らしい音楽に出会い、学び、育つ、それをアジアの片隅、別府を拠点として音楽文化をアジアに発信しようという壮大な望みを着実に実行しています。

今年で29回を迎える草津音楽祭もまさにそうで、世界の一流アーティストが、夏のさ中、草津に滞在し、全国から集まってくる高校生以上の受講生たちを、ほんとうに熱心に教えます。午前中、講習、そして午後は演奏家たちの素晴らしいコンサート。自然あふれる高原のコンサートホール。芸術創造はこのような環境の中にこそはぐくまれる、そう思わざるをえない豊かな時間が過ぎていきます。

### 熱狂の日

教育プログラムを前面に掲げる音楽祭の一方で、多くの聴衆が気楽に演奏会に足を運びたくなるチャーミングなプログラムを掲げる音楽祭があります。4月末から5月最初のゴールデンウィークの有楽町、国際フォーラムでの「熱狂の日」には30万以上の人で大盛況となります。モーツァルトに始まり、ベートー

市川市文化振興財団 音楽総合プロデューサー 小坂 裕子

ヴェン、そして今年はシューベルトがテーマでした。例えば適切かどうか分かりませんが、並んでいるお店には入ってみたいというように、有楽町にあふれる人波に参加してみたくなくてチケットを買う、普段はクラシックに興味のない方も決して少なくないようです。

### 河口湖音楽祭

さて音楽祭のもっともいいところというとは何でしょうか? 年齢を越えた人たちが集うことができるということでしょうか。最近行った音楽祭に河口湖音楽祭があります。佐渡裕さんプロデュースのもと、キッズ・オーケストラの合宿、発表を兼ねたいくつものコンサートが企画されています。「キッズ」と呼ばれるまだ未熟とはいえ、真剣に教えを受ける子供たち、その一生懸命さが非常に印象的で、「キッズ」たちを支える佐渡さんをはじめ先生陣の熱心な指導の結果、なかなかの演奏振りで、教育のあるべき原点は、このように熱意あふれる大人とそれを受け止める子供とのコミュニケーションの中にあると、あらためて確認させられる思いがします。

### 市川の「音楽祭」

さて市川の「音楽祭」について、最後に少し詳しくお話ししましょう。第三回WHO世界健康都市連合国際大会に際して、10月19日と23日、まさに子供たちを交えた「音楽祭」を市内各所ですることになっています。

健康な街には健全な子供たちの声と笑いがあふれます。市川をそんな場所にとの願いを込めて市内各所で音楽会が開催されます。

10月19日(日)の午後、行徳地区では徳願寺で「アウラ」によるアカペラ演奏会。中山法華経寺祖師堂では木村珠美さんと西野薫さんによるソプラノ演奏会、そして正中山雅楽会による雅楽コンサート。グリーン・スタジオ前では西高高校生によるサクソフォン・アンサンブル。動物園では大柏小学生のブラスバンド、妙典サティではサクソフォン・アンサンブル演奏会があります。

23日午後6時過ぎからは、文化会館大ホールでソプラノの崔岩光さんと中学生や新人演奏家たちが共演します。南行徳中学校合唱部と妙典中学校のウィンドオーケストラ。当財団新人演奏会オーディション合格者、ヴァイオリンの小関妙さんと小関郁さ、山田麻実さん、サクソフォンの細川紘希さんと鯛川大輔さんが新鮮な輝きにあふれる演奏を披露します。

市内各所で開かれるさまざまな無料の「市川音楽祭」。詳細は最終ページをご覧ください。みなさまのお越しを心からお待ちしています。